

**1. 施設の名称等**

施設名称	長崎県美術館
所在地	長崎市出島町2番1号

事業所管	文化観光国際部	文化振興課
課（室）長名	土井口 章博	

総合計画上の位置づけ	基本戦略	3-2	地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る
	施策	5	特色ある文化資源・スポーツによる地域活性化
	事業群	①	歴史や文化芸術による地域活性化

**2. 施設の概要**

設置年月日	平成 17 年 4 月 23 日						
設置法令等	長崎県美術館条例（平成15年12月22日長崎県条例第61号）						
設置目的	地域の活性化及び芸術文化活動の拠点として、優れた美術作品の鑑賞及び学習の機会を提供するとともに、創作活動及び作品発表等の支援を通じて、生涯学習に対応した文化的環境の整備を図り、もって新たな長崎県の文化の創出に寄与する。						
利用対象者等	主な利用対象者：県民及び県外客 開館時間：午前10時～午後8時、休館日：第2、第4月曜日（祝日の場合は翌日）						
施設内容	敷地面積9,914㎡、建築面積5,209㎡、延べ面積10,092㎡ 企画展示室、常設展示室1～5、運河ギャラリー、県民ギャラリー、ホール(150席)、講座室、アトリエ、ミュージアムショップ、カフェ、情報コーナー						
施設の利用料金体系	〔常設展利用料金〕						
		一般	大学生	小中高生	70歳以上	備考	
	普通観覧料金	420円	310円	210円	310円	○減免事項 ※県内在住の小・中学生は無料 ※障害者手帳、特定医療費（指定難病）医療受給者証等の提示者及び介護者1名は無料 ※学校行事の一環として、県内の小・中・高・盲・ろう・養護学校生が利用する場合は、引率の教員を含め無料	
	団体割引料金	340円	250円	170円	250円		15人以上
〔企画展利用料金〕 展覧会により異なる							
〔貸館利用料金〕							
	名称	面積(㎡)	利用料金 (入場料無料の場合)		備考		
	県民ギャラリー	940	34,390円/日		※入場料を徴収する場合は、左記の1.3倍 ※入場料を徴収しない展覧会等のうち、教育目的や公的機関の利用については10～3割の減免措置あり		
	運河ギャラリー	170	3,030円/日				
	ホール	210	6,810円/回				
	講座室	70	2,720円/回				
	運河劇場	330	1,040円/回				
	屋上庭園	1,200	6,390円/回				
類似施設の設置状況	施設名		岩手県立美術館	鳥根県立美術館	富山県美術館		
		一般	410円	300円	300円		
	入館料	大学生	310円	200円	無料		
		高校生以下	無料	無料	無料		
	利用者数（R2実績）		43,271人	103,564人	265,134人		
	指定管理者制度導入		平成18年4月1日	平成17年4月1日	平成18年4月1日		
	管理運営負担金（R3予算）		413,998千円	299,281千円	非公表		
	述べ床面積		13,000㎡	12,498㎡	14,990㎡		
指定管理形態		管理（学芸部門は委託）	管理（学芸部門は直営）	管理（学芸部門は直営）			
県 予 算	区 分 (単位：千円)		平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (計画)
	財源	国庫				10,000	
		その他（諸収入、繰入金）	353,524	347,865	351,032	353,842	353,642
		一般財源	4,857	10,000	10,000	11,065	10,000
		事業費＜A＞	358,381	357,865	361,032	374,907	363,642
	内訳	管理運営負担金	342,035	342,035	345,202	348,369	348,370
		その他（特別経費負担金等）	16,346	15,830	15,830	26,538	15,272
		人件費＜B＞	16,092	15,944	15,908	15,648	15,706
		合計＜C=A+B＞	374,473	373,809	376,940	390,555	379,348
		単位あたりコスト	1	1	1	3	1
(説明) 「当事業による入館者1人あたりの運営費用」= C ÷ (入館者数)							

### 3. 指定管理者の概要

指定管理者の名称等	《所在地》	長崎市出島町2番1号				
	《名称》	公益財団法人長崎ミュージアム振興財団				
	《代表者氏名》	中牟田 新一				
指定期間	平成 27 年 4 月 1 日 ~ 令和 3 年 3 月 31 日					
業 務	①施設（設備）の維持・修繕等 ②美術館の運営（展示、調査研究活動、生涯学習・教育プログラム、国内外の美術館との連携） ③美術館のマネジメント（集客、営業、PR、イベント企画、ボランティアの活用等） ④ミュージアムショップ、カフェの経営					
利用料金制	■ 導入済	未導入	選定方法	■ 公募	非公募	

### 4. 成果指標の達成状況及び管理運営に要した経費等の収支状況

成果指標の達成状況	① 本展・移動展や遠隔授業等の実施市町数		(目標値の根拠)		＜令和3年度実施における変更点＞			
	② 来館者満足度		①博物館・美術館で5年間で県内全市町（21市町）で実施を目指す。					
	③ 県民ギャラリー稼働率		②アンケート5段階評価における年間平均において、80%以上の満足度を目指す。					
④ 美術館入館者数（参考値）		③90%以上の稼働率を目指す。						
実 績			平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (計画)	
		単 位						
①	a	目標値	市町	5	5	5	5	5
	b	実績値	市町	5	6	5	5	
	c	達成率b/a	%	100	120	100	100	
②	a	目標値	点	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
	b	実績値	点	4.3	4.3	4.4	4.4	
	c	達成率b/a	%	107	107	110	110	
③	a	目標値	%	90	90	90	90	90
	b	実績値	%	99	98	98	76	
	c	達成率b/a	%	110	108	108	84	
④	a	目標値	—	—	—	—	—	—
	b	実績値	人	346,736	391,547	384,323	112,393	
	c	達成率b/a	%	—	—	—	—	
指定管理者の収支状況	事業計画 (R2)		平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (計画)	
	(千円)	実績-計画						
利用料金	19,747	1,587	54,269	44,001	87,720	21,334	40,394	
県負担金	348,368	1	342,035	342,035	345,202	348,369	348,370	
その他	29,596	52,595	112,127	106,271	287,051	82,191	98,979	
収入計a	397,711	54,183	508,431	492,307	719,973	451,894	487,743	
支出b	394,617	42,724	507,787	503,161	716,414	437,341	484,067	
うち人件費	127,823	1,580	119,378	124,923	134,930	129,403	137,023	
収支a-b	3,094	11,459	644	▲ 10,854	3,559	14,553	3,676	
配置職員数 (人)	常勤 25 非常勤 0	常勤 0 非常勤 0	常勤 25 非常勤 0	常勤 24 非常勤 0	常勤 25 非常勤 0	常勤 25 非常勤 0	常勤 25 非常勤 0	

※この収支は指定管理者が行う管理運営に係るものであり、この他に県が直接負担したのものとしては、「2. 施設の概要」の「県予算」の「その他」がある。

5. 令和2年度事業の実施状況・実績の検証

計 画	実 績
<p>&lt;指定管理者実施分&gt;            ①美術館の管理運営業務            ②調査研究業務            ③他の美術館、博物館との連携事業            ④生涯学習、教育普及事業            ⑤アートボランティア事業            ⑥広報マーケティング事業            (利用料金、その他自主事業)            ⑦常設展事業            ⑧企画展事業            ⑨施設貸出事業            ⑩ショップ・カフェ事業</p> <p>&lt;県実施分&gt;            ①施設や備品の修繕業務等</p>	<p>&lt;指定管理者実施分&gt;            ①施設の清掃、警備、機器運転業務、各種保守点検等の業務は、協定書に基づき適正に実施された。            ②収蔵作品に関する調査研究、保存修復に関する調査研究、展覧会企画に関する調査研究、生涯学習支援に関する調査研究、美術情報に関する調査研究、須磨コレクションに関する調査研究について、協定書に基づき進めた。            ③新型コロナウイルス感染症の影響により、釜山市立美術館との交流は、国外への渡航が困難となったため中止。釜山市立美術館と長崎県美術館の両館の館長によるWeb会議を行い、今後も交流事業を継続し、両館連携していくことを確認した。            ④学校教育との連携事業であるスクールプログラムを実施し、4,858人が参加した。            移動美術館を実施し、遠隔地の方々へ美術作品に親しむ機会を提供した。(五島市、東彼杵町)            TV会議システムを利用して遠隔地の小学校と遠隔授業を実施した。(波佐見町)            ⑤99名のボランティアが、展示事業や生涯学習事業、広報、館運営などの美術館事業全般にわたるボランティア活動を実施した。            ⑥展覧会、教育普及事業を中心に広報活動を展開。自主媒体や広告による情報発信、マスコミ誘致、取材対応などで美術館のPRと来館促進に取り組んだ。新型コロナウイルス感染症の影響による展覧会等各種事業の中止、臨時休館や開館時間短縮などの対応については、自主媒体を中心に随時情報発信を行い、速やかな周知に努めた。            HPへのアクセス数は542,775件(前年度比66%)であった。企画展へのアクセス数が多く、次にコレクション展、ショップ・カフェの順に多い。企画展では特に隈 研吾 展のアクセス数が多かった。また、メルマガの配信やツイッター、インスタグラムの活用など美術館に興味を持つ人へ定期的に情報発信を行った。            (利用料金、その他自主事業)            ⑦収蔵作品の展示に加え、長崎ゆかりの作家で、令和2年に死去した奈良原 一高、菊畑 茂久馬 両氏の追悼展を開いたほか、本県出身のデザイナーである城谷 耕生 氏の作品を紹介した。また、収蔵名品展や須磨コレクション、スペイン近現代美術などを工夫を加えながら展示し、収蔵作品の新たな魅力発信に努めた。            新型コロナウイルス感染症の影響による入館者数の減及び来館者数目標の見直しを行った結果、入館者数は21,878人(館計画比222%)となった。            ⑧新型コロナウイルス感染症の影響により、予定されていた5つの企画展のうち4つが中止となった。その状況下において、所蔵作品で構成する新たな企画展の実施や、長崎県美術館をデザインした隈 研吾 氏の展覧会を開催し、魅力溢れる企画展の開催に努めた。            新型コロナウイルス感染症の影響による入館者数の減及び来館者数目標の見直しを行った結果、入館者数は44,083人(館計画比179.9%)となった。            ⑨新型コロナウイルス感染症の影響により、県民ギャラリー等の展覧会中止や延期、ホール・講座室等の利用キャンセル(81件)が相次ぐ中、県民ギャラリーについては令和2年7月に再募集を行い、コロナ禍での利用促進に努めた。            県民ギャラリーでは34展覧会、延べ展示日数226日(稼働率76%)の利用となった。県民ギャラリー等の利用者数は88,232人であり、全入館者数の78%を占めている。            ⑩ショップはコロナ禍での生活を意識した品揃えや展覧会客層に合わせたフェアを開催するなど工夫した店舗展開を行い、カフェはテイクアウト可能なメニュー開発を進め、美術館利用者以外のテイクアウト需要の掘り起こしにも力を入れたが、新型コロナウイルス感染症の影響による休業時のコスト負担や展覧会の中止による来館者の大幅減少等により、売上原価率が高くなったことが響き、1,357千円の赤字となった。</p> <p>&lt;県実施分&gt;            ①監視カメラや入退室管理システムの各種修繕を実施した。</p>

管理運営の状況

検 証

管理運営の状況

○新型コロナウイルス感染症の影響により、臨時休館を行ったほか、予定していた展覧会も中止を余儀なくされるなど、館運営に大きな制限を受けた結果、年間入館者数は112,393人と前年度比で約3割程度にとどまり、過去最も少ない入館者数となったが、来館者の満足度は88%と目標の80%を上回ることができた。  
 ○常設展事業は、収蔵作品の展示に加え、長崎ゆかりの作家で、令和2年に死去した奈良原 一高、菊畑 茂久馬 両氏の追悼展を開いたほか、本県出身のデザイナーである城谷 耕生 氏の作品を紹介した。また、収蔵名品展や須磨コレクション、スペイン近現代美術などを工夫を加えながら展示し、収蔵作品の新たな魅力発信に努めたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、入館者数は21,878人と前年度比で約2割程度にとどまった。  
 ○企画展事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により、予定されていた5つの企画展のうち4つが中止となった。その状況下において、所蔵作品で構成する新たな企画展の実施や、長崎県美術館をデザインした隈 研吾 氏の展覧会を開催し、魅力溢れる企画展の開催に努めたが、入館者数は44,083人と前年度比で約4割程度にとどまった。  
 ○県民ギャラリーは、新型コロナウイルス感染症の影響により、展覧会中止や延期、ホール・講座室等の利用キャンセル（81件）が相次ぐ中、令和2年7月に再募集を行い、コロナ禍での利用促進に努めた。  
 稼働率は目標の90%に対し、76%の利用となったが、貸施設全体の利用者数は88,232人と全入館者数の78%を占めており、コロナ禍の状況下において県民の文化活動の場として広く活用されている。  
 ○経営面では、新型コロナウイルス感染症の影響により、館運営に大きな制限を受けたが、持続化給付金等の助成制度を活用した結果、14,553千円の黒字計上となった。

収支計画・実績

<指定管理者実施分>

(単位：千円)

主な項目	計画	実績	増減理由・収支改善の取り組み等
収入 a	397,711	451,894	
負担金	348,368	348,369	
利用料金	19,747	21,334	新型コロナウイルス感染症の影響を受けたが、企画展では所蔵作品で構成する新たな展覧会の実施や、長崎県美術館をデザインした隈 研吾 氏の展覧会で一定の入館者数が確保できたため収入増。
うち常設展収入	1,371	890	
うち企画展収入	15,376	16,353	
その他	29,596	82,191	ショップはコロナ禍での生活を意識した品揃えや展覧会客層に合わせたフェアを開催するなど工夫した店舗展開を行い、カフェはテイクアウト可能なメニュー開発を進め、美術館利用者以外のテイクアウト需要の掘り起こしにも力を入れた結果、収入増。
うちショップ収入	5,934	20,241	
うちカフェ収入	2,604	11,560	
支出 b	394,617	437,341	
人件費、事務費	137,823	129,403	新型コロナウイルス感染症の影響を受けたことによる業務費用減。
施設管理維持費	166,718	178,331	施設の劣化に伴う維持管理費増。
利用料金	45,120	44,163	新型コロナウイルス感染症の影響を受けたため、全体で業務費用減。
うち常設展支出	11,050	11,879	
うち企画展支出	34,070	32,284	
その他	44,956	85,444	ショップはコロナ禍での生活を意識した品揃えや展覧会客層に合わせたフェアを開催するなど工夫した店舗展開を行い、カフェはテイクアウト可能なメニュー開発を進め、美術館利用者以外のテイクアウト需要の掘り起こしにも力を入れた結果、支出増。
うちショップ支出	5,575	18,982	
うちカフェ支出	2,537	14,176	
収支 a-b	3,094	14,553	

収支の状況

検 証

【収入の部】 計画比54,183千円の増  
 ○常設展・企画展観覧料収入は、新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた展覧会の中止を余儀なくされたものの、その状況下において、所蔵作品で構成する新たな展覧会の実施や、長崎県美術館をデザインした隈 研吾 氏の展覧会を開催し、496千円の増となった。  
 ○ショップ・カフェ収入について、ショップはコロナ禍での生活を意識した品揃えや展覧会客層に合わせたフェアを開催するなど工夫した店舗展開を行い、カフェはテイクアウト可能なメニュー開発を進め、美術館利用者以外のテイクアウト需要の掘り起こしにも力を入れた結果、23,263千円の増となった。  
 【支出の部】 計画比42,724千円の増  
 ○常設展・企画展事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により、全体で957千円の業務費用減となった。  
 ○ショップ・カフェ事業は、ショップはコロナ禍での生活を意識した品揃えや展覧会客層に合わせたフェアを開催するなど工夫した店舗展開を行い、カフェはテイクアウト可能なメニュー開発を進め、美術館利用者以外のテイクアウト需要の掘り起こしにも力を入れた結果、25,046千円の増となった。  
 新型コロナウイルス感染症の影響により、臨時休館を行ったほか、予定していた展覧会も中止を余儀なくされるなど、館運営は大きな制限を受けたが、新型コロナウイルス感染症の影響による持続化給付金等の助成制度も併せて活用したことにより、収支は当初計画3,094千円に対し14,553千円の黒字計上となり、コロナ禍による大幅な経営悪化を回避できた。

指定管理者制度の導入効果を踏まえた施設の設置目的の達成状況の総合評価

B

(説明)

○生涯学習・教育普及事業では、学校との連携事業であるスクールプログラムの実施、移動美術館の開催、遠隔授業の実施、企画展に関連したワークショップの実施など、幅広い年齢層へ学習の機会を提供した。  
 ○新型コロナウイルス感染症の影響により、年間入館者数は112,393人と前年度比で約3割程度にとどまり、過去最も少ない入館者数となったが、来館者の満足度は88%と目標の80%を上回った。  
 ○県民ギャラリーの稼働率は目標の90%に対して76%にとどまったが、県民ギャラリー等の利用者数は88,232人と全入館者数の78%を占めており、コロナ禍の状況下において県民の文化活動の場として広く活用されている。  
 ○経営面では新型コロナウイルス感染症の影響により、臨時休館を行ったほか、予定していた展覧会も中止を余儀なくされるなど、館運営に大きな制限を受けたが、持続化給付金等の助成制度を活用した結果、年間収支は黒字を計上した。

## 6. 令和3年度事業の実施にあたり見直した内容

### 内 容

○令和3年度は新型コロナウイルス感染症の収束が未だ見通せない中、館運営を取り巻く環境は引き続き厳しい状況が想定されるが、感染状況を見極めながら、現代スペイン美術を代表するミケル・バルセロ展、収蔵作品を活かした「土地の名」展、少女漫画雑誌「りぼん」展など、多くの県民にとって魅力溢れる多様なジャンルの企画展等の開催に努めていくとともに、財務面についても運営費等の縮減や、積極的な広報・販促活動を実施し、収入の確保に努めていく。

○新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の更なる徹底を図り、引き続き「新しい生活様式」や業界のガイドラインに沿った館運営を行っていく。

○収益事業であるショップ・カフェ事業は、ショップについては展覧会の客層に合わせた商品ラインナップや店頭ディスプレイ等の充実強化、カフェについては来館者のニーズに合ったテイクアウト商品の提供、季節や展覧会に合わせた魅力ある商品の開発を行うことで収支の黒字化を図っていく。

○コロナ禍における国・民間団体等の各種助成金の積極的な活用及びマスコミと連携して新たな協賛金を獲得するとともに、地元事業者や長崎進出事業者からの法人会員獲得を図ることで、新たな自主財源の確保を目指す。

## 7. 令和3年度事業の評価 ※評価区分（a：行われている、b：一部行われていない、c：行われていない）

	視点	評価	判定理由
指定管理者の行う管理運営等に関する評価	・施設の設置目的にあった管理運営が行われているか。	a	・新型コロナウイルス感染症の影響により、臨時休館や開館時間の短縮を余儀なくされた状況下において、オンライン配信や三密回避の人数制限によるイベントの実施等、可能な限り県民に芸術に触れる機会を提供している。 ・県民の文化・芸術活動の充実に貢献するため、県民ギャラリーやホール等の貸し施設の利用を促進している。
	・住民の公平かつ平等な利用の確保が行われているか。	a	・利用料金の減免について明確な基準を作成し、ホームページで公開することによって、住民の公平かつ平等な利用を確保している。 ・遠隔地の住民の方にも、美術館の作品を鑑賞する機会を提供するため、年2回の移動美術館を予定している。
	・利用者に質の高いサービスの提供が行われているか。	a	・来館者アンケート調査によって、利用者の満足度を把握するとともに、利用者の声を館の運営に活用することで、サービスを向上させている。 ・アートボランティアの研修を定期的に行い、サービスの質的向上を図っている。
	・施設・設備の維持管理は適切に行われているか。	a	施設設備の保守点検、清掃等の実施については、協定書に基づき適切な管理が行われ、施設の機能は適正に維持されている。
	・収入の確保に向けた取り組みが行われているか。	a	新型コロナウイルス感染症の影響により、貸館のキャンセルが生じているが、通常は行わない追加の利用募集を不定期に実施するなど、一定の効果は上がっている。
	・経費節減に向けた取り組みが行われているか。	a	全館的に事務的経費や光熱水費の節減に取り組んでいる。
	(その他の観点)		

	視点	評価	理由	
施設の在り方についての評価	必要性	・県民ニーズに照らして、事業の必要性が薄れていないか。	<input checked="" type="checkbox"/> a. 薄れていない b. 一部薄れている c. 薄れている	入館者アンケートでは、入館者に占める県民の割合が令和元年度は1,014人中79%、令和2年度は706人中60%と過半数以上を占めており、必要性は薄れていない。
		・事業を取りまく環境、経済情勢などの変化に適應しているか。	<input checked="" type="checkbox"/> a. 適應している b. 一部適應していない c. 適應していない	地域活性化の核となり、文化を活かしたまちづくりの拠点となっている。
		・市町または民間に移管・移譲することが適当（可能）ではないか。	<input checked="" type="checkbox"/> a. 適当（可能）でない b. 一部適当（可能）でない c. 適当（可能）である	県が政策的に設置した美術館であるため、市町では県全体の施策が実現できず、民間移譲では文化の継続性が保持できない。
	効率性	・県の負担や業務量に見合った活動結果が得られているか。	<input checked="" type="checkbox"/> a. 得られている b. 一部得られている c. 得られていない	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、入館者数が減少しているが、これまでの入館者数実績は全国の都道府県立美術館の中でも高い入館者数を維持している。
		・指定管理者制度以外で、同一の県負担や業務量でより大きな活動結果が得られる手法に代えられないか。	<input checked="" type="checkbox"/> a. 代えられない b. 一部代えられない c. 代えられる	直営は人件費を中心に県負担が大幅に増加するため困難だが、他の制度も含め指定管理者制度との比較検討を行う余地はある。
	有効性	・指定管理者制度は、施設の設置目的の達成に十分寄与する手法となっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> a. なっている b. 一部なっていない c. なっていない	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、一部成果指標が未達成となったが、適正な施設管理を行い、また、生涯学習事業や教育普及事業にも注力しており、幼児から高齢者に至るまで、あらゆる世代の活動の場、学習の場となっている。
		・事業効果をさらに上げる余地はないか。	<input checked="" type="checkbox"/> a. 余地はない <input checked="" type="checkbox"/> b. 一部余地がある c. 余地がある	県の芸術文化活動の拠点施設として、すべての県民が優れた文化芸術に触れる機会を提供できるよう、移動展や遠隔授業といった出張事業を今後も計画的に開催する。
	(その他の観点)			

## 8. 令和4年度事業の実施に向けた方向性

区分	現状維持	改善	移管	廃止
(説明：令和4年度事業の実施に向けた方向性の理由・見直しの内容)				
<p>○業界のガイドラインに沿って新型コロナウイルス感染症防止対策や三密解消を徹底した上で、スペイン美術を標榜する美術館としてヨーロッパの近代美術や現代美術を本格的に紹介する大型企画展や、その他魅力的な展覧会を開催し、優れた美術作品の鑑賞機会を提供するとともに、オンライン等も駆使し、子供から大人まで、県内どこにいても良質な文化芸術に触れることのできる機会を提供していく。また、財務面についても運営費等の縮減や積極的な広報・販促活動の実施により収入の確保に努める。</p> <p>○建設から15年以上を経過し、施設の劣化に伴う不具合が頻発しており、維持管理費の増加が予想されるため、今後も光熱水費や事務的経費の削減に努めるとともに、大規模修繕が必要となる前に、毎日の点検及び早期修繕にしっかりと取り組んでいく。</p> <p>○県民ギャラリーを中心とした施設貸出事業は、新型コロナウイルス感染症防止対策として、人数制限を行わざるを得ないが、県民の積極的な利用促進を図っていく。</p> <p>○指定管理者の経営基盤を安定化させるため、カフェ事業について、より一層のコスト削減に取り組みながら地域の食材に着目し、話題性のあるメニューを提供することで安定した黒字化を目指す。</p>				